

平成27年12月期 決算説明会



平成28年2月18日
大倉工業株式会社

当社の概況

社名 大倉工業株式会社
Okura Industrial Co.,Ltd.
本社所在地 香川県丸亀市中津町1515番地
代表者 代表取締役社長 高濱 和則
設立 昭和22年7月11日
資本金 86億1千9百万円
発行済株式数 62,074,351株
従業員数 1,930名（連結子会社14社含む）

【平成27年12月末現在】

目次

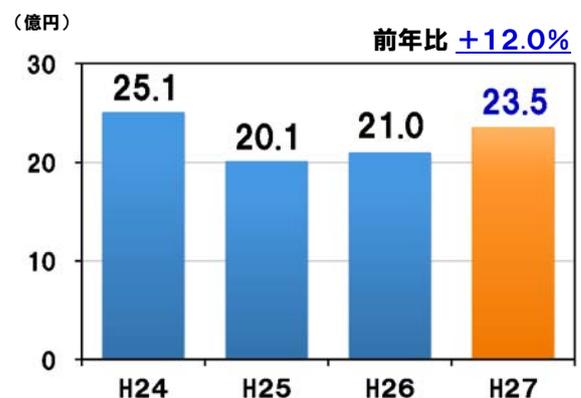
1. 平成27年12月期決算の概要
2. 第五次中期経営計画について
3. 平成28年12月期の業績予想

1.平成27年12月期決算の概要

連結売上高 通期実績



連結営業利益 通期実績



売上高・営業利益

【売上高】

- 前年比▲1.8%（上期：▲6.3%下期：+3.0%）

無錫大倉包装材料有限公司を今期より全部連結

影響額：売上高+4億円、営業利益▲1.6億円、当期純利益▲4.4億円

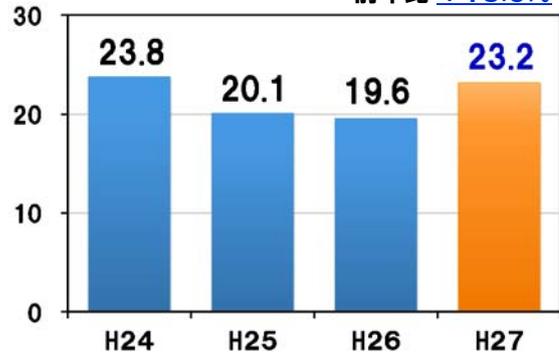
【営業利益】

- 合成樹脂事業：原料値下がりにより増益
- 新規材料事業：新工場の費用増により大幅減益
- 建材事業：最小限の黒字化

連結経常利益 通期実績

(億円)

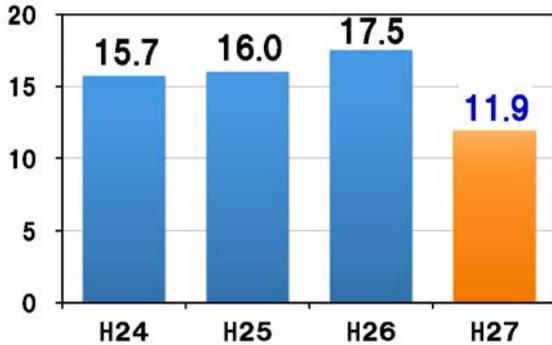
前年比 +18.5%



連結当期純利益 通期実績

(億円)

前年比 ▲32.3%



営業外・特別損益等

【特別損益等】

- 固定資産売却益
九州支店跡地等売却 59百万円
- 固定資産除売却損
既存設備の撤去等 164百万円
- 減損損失
無錫大倉包装材料有限公司 252百万円

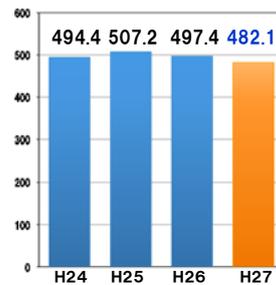
【当期純利益】 法人税増加により減益

セグメント別の概要

合成樹脂事業セグメント

(億円)

【売上高】

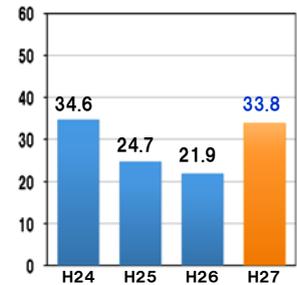


前年比 ▲3.1%

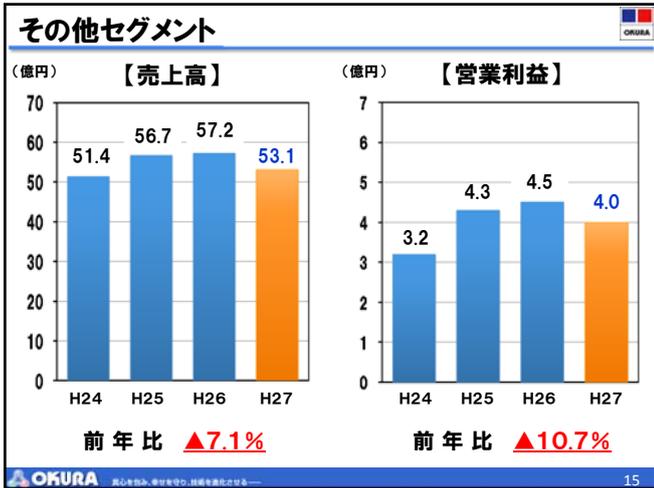
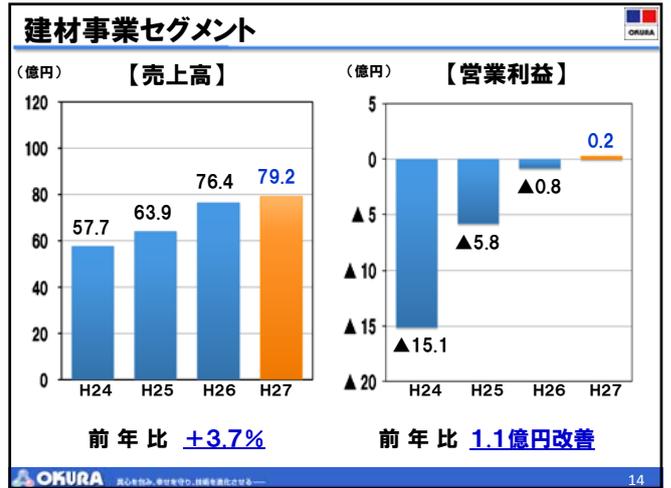
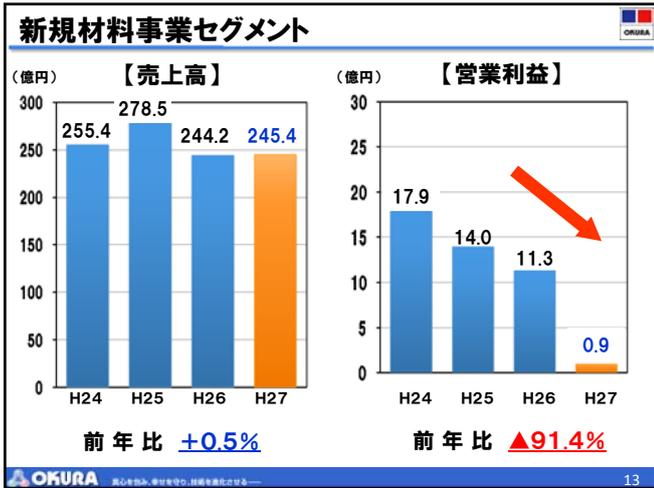
(国内販売数量前年比▲3.1%)

(億円)

【営業利益】



前年比 +54.4%



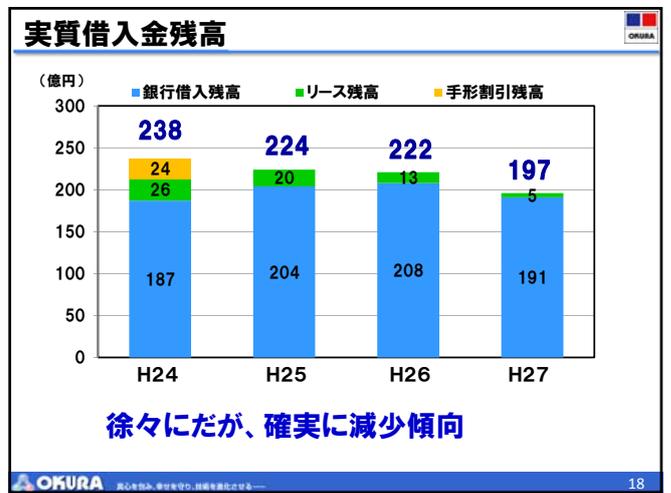
キャッシュ・フロー

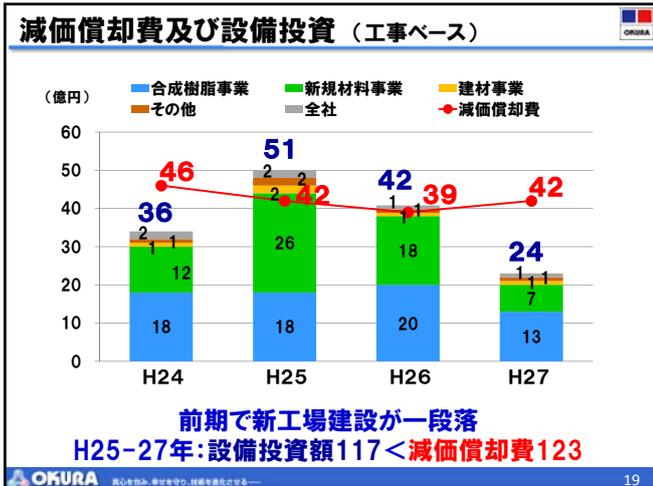
連結キャッシュ・フロー計算書

	H24年	H25年	H26年	H27年
現金及び現金同等物期首残高	77.4	74.0	78.3	67.3
営業活動によるキャッシュ・フロー	85.1 (91.8)	37.9 (62.0)	54.4	57.5
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲38.5	▲38.5	▲59.0	▲21.3
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲50.6 (▲57.3)	3.8 (▲20.3)	▲6.6	▲30.4
現金及び現金同等物期末残高	74.0	78.3	67.3	73.8

※()内は、手形割引等考慮後の実質キャッシュ・フロー

**原料値下がり等により営業CFは増加
新工場等の投資が一段落し、投資CFは減少**





2.第五次中期経営計画について

グループ基本方針

大倉工業グループの目指す姿

「社会から信頼される企業」
であり続ける

成長分野にソリューションを提供できる
「技術優位な企業集団」

基本方針

全社戦略は
国内市場は「量」、海外市場は「質」

重点課題

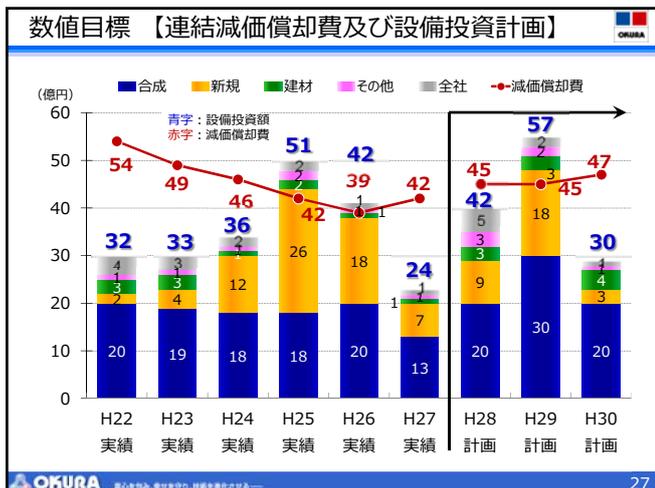
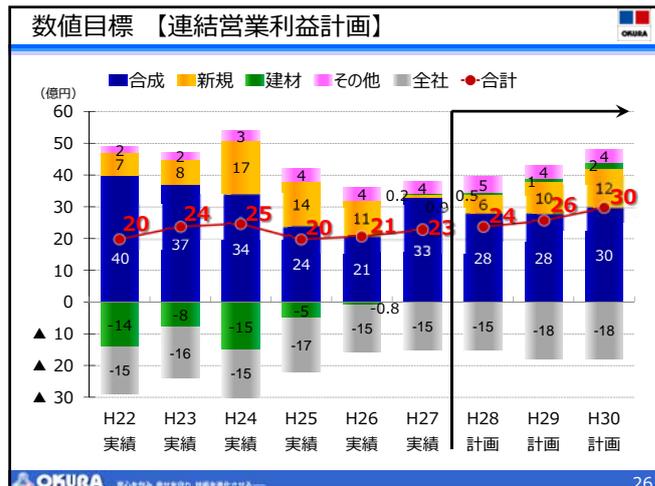
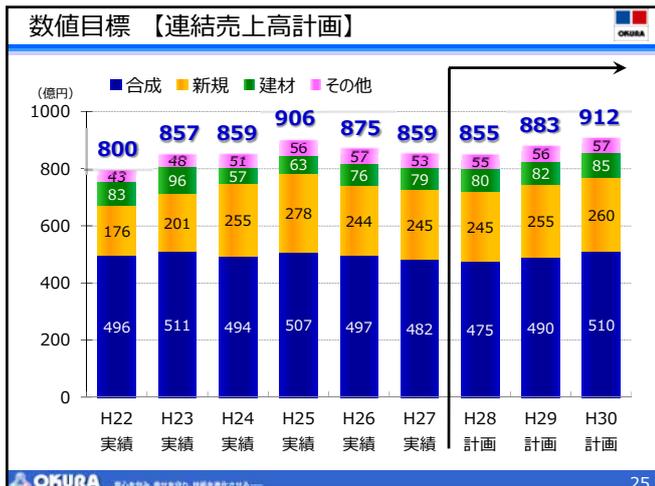
- ① 不採算製品の整理と得意分野での拡大
- ② 事業組織を再編し、新分野・新ニーズ対応による事業規模拡大
- ③ 新規事業の探索

↓

「収益基盤の安定強化」

数値目標

	(億円)		
	H28年	H29年	H30年
売上高	855	883	912
営業利益	24	26	30
経常利益	24	26	30
減価償却費	45	45	47
設備投資額	42	57	30



設備投資計画

H28-H30年：
設備投資額130億円<減価償却費138億円

合成樹脂事業：シュリンクフィルムの多層化・高速化 (H29-30年：16億円、H30年稼働)

新規材料事業：光学フィルムの新樹脂原料対応の設備改造 (H29年：14億円、H30年稼働)

全社：内部統制強化、生産性及び品質向上を目的に新システムの検討 (H28-29年：10億円、H30年稼働)

事業別基本方針

合成樹脂事業

選択と集中による事業領域の拡大

重点課題

- ① BU再編 (6グループ制→4BU制)
- ② シュリンク製品拡販のための最新設備導入
- ③ 関東地区での製造・営業強化

↓

「利益体質の強化」

新規材料事業

**利益が出る事業に立て直し
成長分野での要求に対応**

重点課題

- ① G棟の安定稼働と生産性向上
- ② 新樹脂原料での光学フィルム（設備改造）

↓

「市場でのプレゼンス向上」

OKURA 真心を込め、夢を叶えよう。挑戦を乗り越えたい。

31

建材事業

高付加価値製品の拡充

重点課題

- ① PBの生産・販売の最適化
- ② フロア拡販、構造用PB事業の本格化
- ③ ラミネート技術の進化と製品開発

↓

「事業の安定的な黒字化」

OKURA 真心を込め、夢を叶えよう。挑戦を乗り越えたい。

32

その他事業

地域密着と新商品開発

重点課題

ホテル	会議・宴会等定期催事の獲得
情報	新たなサービスの創出
ハウス	分譲から高耐震・省エネ商品へ
プレカト	生産性と原価管理精度の向上

↓

「収益基盤の安定強化」

OKURA 真心を込め、夢を叶えよう。挑戦を乗り越えたい。

33

3. 平成28年12月期の業績予想

OKURA 真心を込め、夢を叶えよう。挑戦を乗り越えたい。

34

平成28年業績予想

マクロ見通し

日本経済は足踏み、増税前駆け込みも不透明

売上高

合成：数量増加するも売価下落もあり微減
 新規：新工場を中心に増収
 建材：前年維持

営業利益

合成：原料値下がりに伴う売価下落もあり減益
 新規：新工場の損益が改善
 建材：前年維持

OKURA 真心を込め、夢を叶えよう。挑戦を乗り越えたい。

35

平成28年業績予想

(億円)

	上期	下期	通期	前年
売上高	415	440	855	859
営業利益	10.2	13.8	24.0	23.5
経常利益	10.2	13.8	24.0	23.2
当期純利益	5.0	7.5	12.5	11.9

OKURA 真心を込め、夢を叶えよう。挑戦を乗り越えたい。

36

平成28年業績予想 セグメント別売上高

(億円)

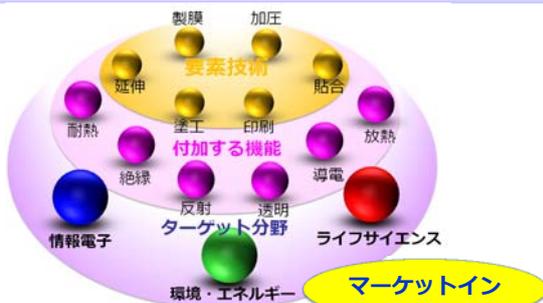
	上期	下期	通期	前年
合成樹脂事業	230	245	475	482
新規材料事業	120	125	245	245
建材事業	40	40	80	79
その他	25	30	55	53
合計	415	440	855	859

平成28年業績予想 セグメント別営業利益

(億円)

	上期	下期	通期	前年
合成樹脂事業	13.0	15.0	28.0	33.8
新規材料事業	2.5	3.5	6.0	0.9
建材事業	0.2	0.3	0.5	0.2
その他	2.5	2.5	5.0	4.0
調整額	▲8.0	▲7.5	▲15.5	▲15.6
合計	10.2	13.8	24.0	23.5

【R&Dセンター】開発の方向性



引き続き伸長が期待される3つの分野に向け
事業化につなげる開発を加速する

業績予想・事業計画に関する注意事項

本資料に掲載されている業績予想・事業計画は、当社が現時点で入手可能な情報及び種々の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等の結果は、今後生ずる様々な要因によって、予想・計画とは異なる場合がございます。